

舟場正富著「ブレアのイギリス - 福祉のニューディールと新産業主義」を読む

- 教育、教育、教育とは何かを考える -

教育に対する執念

「マニフェスト'97」では次の政策公約が提起されたのである。

(1) 統一学力テストで成績の改善がみられなかった学校への制裁措置

LEAs(地方教育当局)は、すべての学校で確実に成果を上げなければならない。改善に失敗した学校に対しては、大臣は「フレッシュ・スタート」を命じることができるようにする。これは元の学校を廃止して同じところに新しい学校を作るという制裁措置である。良い学校と悪い学校が近くに併存しているとき、LEAsにより前者に後者を吸収合併して後者を改善できるようにする。

(2) 教育の停滞に対する責任追及

どの地域に属する学校であろうと、レイバー(労働党)は一定の学力水準への未達成には容赦はしない。PFIにより学校の設備条件を改善する。一定の学力水準に到達しない学校には高レベルの教師や校長を投入し、低水準の学校をターゲットにした教育アクション・ゾーンを設置する。一定の学力レベルに到達しない子どもに対するマン・ツー・マンの支援を行うボランティア・モニタリングの制度や、十四歳以上の子どもに対しては、製造業や商業の知識や経験を獲得させるなどの新しい機会を作る。

(3) グラント・メインテインド・スクール=オプトアウト校(教育省直接補助維持学校)への対応

現在グラント・メインテインド・スクールになっている学校もレイバー(労働党)の提案に他の学校と同じように共存共栄できるだろう。トリーはレイバー(労働党)がこうした学校を閉鎖しているのは誤りである。基金を与えているシステムは学校間または生徒間を不当に差別することにはならない。LEAsはそれらを統括するがコントロールするわけではない。我々は一九九三年に導入したガイドラインに沿ったオープンでフェアな入学許可を指示するが、問題が起こったときに独立の会議に訴える権利を保障する。

#### (4) 教師に関する新しい規準づくり

学校の質は完全にすべてのスタッフの質に依存している。教師の多くは有能でかつ献身的であるが、一部には欠点がないわけではない。我々は教師の養成法を改善し、すべての教師の採用に当たっては、彼らの教育という仕事に対する適性を見るために予備期間を設ける。教師の水準について議論し向上させることを目的に総合教師会議 (General Teacher Council) を設置する。我々レイバーは、教師に関する新しい規準を作り、最良のあり方を示す。しかしながら、仕事に耐え得ない教師に関しては速やかに、また公開された規準の適用によりフェアに辞めさせる手続きをとる。教育水準の高さは、その校長の質に決定的に依存している。我々は校長に対して職務上の採用規準を作る。校長はその職務を受けるだけのすべての研修プログラムを終えた後にその職に任命される。

この他に、一九九六年から四歳児に導入された教育バウチャー (授業を受けるチケット = 保護者に送付して子供を登録した保育所等に納付できるようにしたが、多くの問題が生じた) の一律配布 (一人当たり年間 1100 ポンド) や私学への補助学席 (低所得層への授業料補助) の廃止などが提案されて、他の事業の財源とされている。

ブレア政権の教育に対する執念は、それがイギリスのあたらしい産業社会の運命を握っているという確信に基づいているとあってよい。

舟場正富著「ブレアのイギリス - 福祉のニューディールと新産業主義」

PHP 選書、PHP 研究所 1998 年 10 月 2 日刊

- 2006 年 10 月 9 日記 -